

## さらに幅広い対象に投資するには

### バランス型の投資信託を活用する

金融調査部 研究員 是枝 俊悟

日経平均株価など国内株式のインデックスが大きく下落する年もあります。国内株式だけでなく債券・不動産や外国資産も組み合わせ、より多くの種類・多くの国の資産に分散投資すると、一層リスクを抑えて安定的なリターンを得やすくなるものと考えられます。バランス型の投資信託を用いると簡単に分散投資をすることができます。

### 株式と債券を組み合わせる

前回紹介した通り、日経平均株価などのインデックスに連動する投資信託は、個別の会社や業種の浮き沈みに左右されにくいという特徴があります。しかし、日経平均株価が42.1%下落した年（2008年）もあり、まだ価格変動リスクが小さいとは言えないかもしれません。

よりリスクを抑えてリターンを安定化させるためには、「国内株式」以外にも投資するとよいでしょう。例えば、債券は株式と比べて比較的ローリスク・ローリターンの資産と考えられますが、その運用成果は株式とは逆になりやすい（株式の運用成績が不調なときは債券の運用成績が良く、株式の運用成績が好調なときは債券の運用成績が悪い）傾向にあります。このため、株式と債券を組み合わせることで投資をすると安定したリターンを得やすくなります。

図表 国内株式・債券のインデックスの年間変動率と均等投資の場合の年間変動率

年	国内株式	国内債券	均等投資
2007	× -11.1%	○ 2.7%	-4.2%
2008	× -42.1%	○ 3.4%	-19.4%
2009	○ 19.0%	× 1.4%	10.2%
2010	-3.0%	2.4%	-0.3%
2011	× -17.3%	1.9%	-7.7%
2012	○ 22.9%	× 1.8%	12.4%
2013	○ 56.7%	2.0%	29.4%
2014	7.1%	○ 4.2%	5.7%
2015	9.1%	× 1.1%	5.1%
2016	0.4%	3.0%	1.7%

（注1）国内株式は日経平均株価、国内債券はDBI総合（大和総研算出）の各年の変動率を示す。「均等投資」は各年のこれら2つの指数の変動率の単純平均。

（注2）○印は国内株式・国内債券のうちそれぞれで、10年間のうち運用成績のベスト3に入った年、×印はワースト3に入った年を指す。

（出所）日本経済新聞社より大和総研作成

図表は、2007年から2016年までの10年間の国内株式と国内債券のインデックスの年間変動率と、国内株式・国内債券のそれぞれにおける運用成績のベスト3（○印）・ワースト3（×印）の年を示したものです。

図表をみると、国内株式の運用成績が悪かったワースト3の年のうち2つの年では国内債券の運用成績がベスト3に入っています。例えば、2008年においては国内株式は42.1%下落しましたが、国内債券の運用成績はプラス3.4%であり、両方の資産に均等投資をしていれば損失は19.4%にとどまった計算になります。

他方、国内株式の運用成績が良かったベスト3の年のうち2つの年では国内債券の運用成績がワースト3に入っています。例えば、2012年において国内株式は22.9%上昇しましたが、国内債券の運用成績はプラス1.8%であり、両方の資産に均等投資した場合の利益は12.4%にとどまった計算になります。株式と債券に分散投資した場合、株式の運用成績が好調な時期に得られる利益が限定的となる分、値下がりのリスクを軽減することができるのです。

## 外国資産や不動産（REIT）も組み合わせる

国内株式・国内債券だけでなく、投資対象に外国の資産や不動産（REIT）を含めると、より一層値動きの幅を小さくでき、安定的なリターンを得やすくなるものと考えられます。

例えば、2011年に発生した東日本大震災は日本経済に大きな影響を及ぼしましたが、海の向こうの米国や英国、中国などにはほとんど影響がなかったものと考えられます。国内株式だけでなく外国株式にも投資を行っている場合、国内株式が不調な年でも外国株式の運用成果が損失を緩和してくれる可能性があります。

では、先取り貯蓄で積み立てていく資金で多くの種類・多くの国の資産に分散投資を行うにはどうすればよいでしょうか。

1つは、自分で複数の投資信託を組み合わせる方法があります。投資信託には国内株式に投資するもの、外国株式に投資するもの、外国債券に投資するものなど投資対象の異なるものが多数ありますので、自分でこれらの投資信託を組み合わせることで、多くの国や多くの種類の資産に分散投資を行うことができます。しかし、自分で複数の投資信託を組み合わせたり、その購入金額の割合を考えたりするのが面倒に感じるかもしれません。

「**バランス型の投資信託**」を購入すれば、複数の投資信託を組み合わせなくても、多くの国や多くの種類の資産に分散投資をすることができます。もっとも、ひとくちにバランス型の投資信託といっても、株式の投資割合を何割にするのか、外国資産を何割含むのか、など、投資先の配分には様々な特色があります。実際にバランス型の投資信託を購入する際には、投資先の配分などを確認し、自分に合った投資信託を選ぶとよいでしょう。

（次回予告：積立投資で時間を味方につける） 以上